

2009年10月改訂(第5版)

2007年10月改訂

貯 法：(1)遮光し、防湿すること。  
(2)室温保存

使用期限：3年（ラベルに表示の使用期限を参照すること。）

注 意：〈配合変化〉  
本品は還元性、キレート性が強いので配合変化を起こしやすく、その際、本品の効力が低下するので注意を要する。

日本標準商品分類番号

87314

承認番号	16100AMZ00954
薬価収載	1956年9月
販売開始	1956年9月
再評価結果	1977年5月

# アスコルビン酸散「マルイシ」20%

日本薬局方 アスコルビン酸散

## 【組成・性状】

- 組成：100g中  
アスコルビン酸 20g  
及び添加物として白糖、サッカリンナトリウム水和物、乳糖水和物、黄色4号（タートラジン）、香料 含有。
- 製剤の性状：黄色の散剤で芳香があり、甘くて酸味がある。

## 【効能・効果】

- ビタミンC欠乏症の予防及び治療（壊血病、メルレル・パロー病）
- ビタミンCの需要が増大し、食事からの摂取が不十分な際の補給（消耗性疾患、妊産婦、授乳婦、はげしい肉体労働時など）
- 下記疾患のうち、ビタミンCの欠乏または代謝障害が関与すると推定される場合（但し、効果がないのに月余にわたって漫然と使用しないこと）
  - ・毛細管出血（鼻出血、歯肉出血、血尿など）
  - ・薬物中毒
  - ・副腎皮質機能障害
  - ・骨折時の骨基質形成・骨癒合促進
  - ・肝斑・雀卵斑・炎症後の色素沈着
  - ・光線過敏性皮膚炎

## 【用法・用量】

通常、成人1日0.25～10g（アスコルビン酸として50～2000mg）を1～数回に分けて経口投与する。  
なお、年齢、症状により適宜増減する。

## 【使用上の注意】

- 副作用  
本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。  
胃腸：悪心・嘔吐、下痢等があらわれることがある。
- 臨床検査結果に及ぼす影響
  - (1) 各種の尿糖検査で、尿糖の検出を妨害することがある。
  - (2) 各種の尿・便潜血反応検査で、偽陰性を呈することがある。

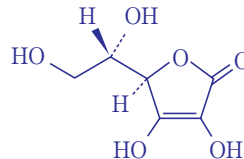
## 【薬効薬理】<sup>1)~4)</sup>

- 毛細血管に対する作用  
毛細血管抵抗性を増強し、出血傾向を改善する。  
また血液凝固能の上昇がみられる。
- 副腎皮質機能に対する作用  
副腎皮質にはアスコルビン酸が多量に存在し、ステロイドホルモンの生合成促進または異化抑制に関与する。
- 結合組織に対する作用  
生体内における細胞間基質とコラーゲンの形成・維持に必須のビタミンで、特に、コラーゲン中のプロリンからヒドロキシプロリンへの水酸化過程に関与し、アスコルビン酸の投与により、コラーゲンの増加がみられる。また骨形成を進行させる。
- メラニン色素生成に対する作用  
ドーパからドーパキノンへの酸化過程を阻害することにより、チロジンからメラニンへの生成過程を抑制する。また既成の酸化型の濃いメラニンを還元型の淡色メラニンに変える作用があり、色素の異常沈着を防ぐ。

## 【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：アスコルビン酸（Ascorbic Acid）  
化学名：L-threo-Hex-2-enono-1,4-lactone  
分子式：C<sub>6</sub>H<sub>8</sub>O<sub>6</sub>  
分子量：176.12  
融点：約190℃（分解）  
性状：白色の結晶または結晶性の粉末で、においはなく、酸味がある。  
水に溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けにくく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

構造式：



## 【包装】

1 kg

## 【主要文献】

- 1) L. S. Goodman & A. Gilman: The Pharmacological Basis of Therapeutics(4th. Ed), 1665(1970)
- 2) 富田 勲: 薬局, 35(5), 27(1984)
- 3) 朝田康夫: 日本医事新報, 2306, 125(1968)
- 4) 高木敬次郎他: 薬物学, 594(1984)

## 【文献請求先】

丸石製薬株式会社 学術情報部  
〒538-0042 大阪市鶴見区今津中2-4-2  
TEL.0120-014-561

製造販売元

Ⓢ 丸石製薬株式会社  
大阪市鶴見区今津中2-4-2